

【別紙】 令和6年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

普及所等組織名: 評価課題名	取り組みの概要	点数	結果	外部評価委員からの主な意見
鳥 取: 飼料作物の増産と品質改善による飼料作物生産体制の強化 ～飼料用米の収量確保、加工調製及び製品利用拡大への支援～	・鳥取県畜産農業協同組合では耕種農家から飼料用米を受け入れ、SGSに加工・製造し県内酪農家と肉用牛農家に供給しているが、更なる供給を求める声があった。 ・増産に向けては栽培面積の拡大が必要であるが、SGS調製工場の受入許容量もあることから、稼働効率向上に向けて新たな品種の導入等により受入時期の平準化を図り、また、新たな設備導入に対しての人員配置などの支援を行った。	15.1	○	・国産の飼料作物増産の必要性をふまえた計画であり、成果も評価できる。興味深い取組だと思う。 ・新たな品種を用いることで現在の粳の受入のピークであった10月を9月に前倒しすることができた。さらに一部を11月にずらすことができれば、より作業効率があがるのではないかと感じた。 ・新たな設備（マルチコンパクター）導入による、畜産農家の経営的な効果を詳しく知りたい。
八 頭: 担い手確保・育成による果樹産地の進展 ～八頭町果樹トレーニングファーム研修体制の構築支援について～	・八頭町では新たな果樹の担い手を確保するため研修生を募集し、町内の農家のもとで研修をして育成する「八頭町果樹トレーニングファーム」の取組を令和6年度より開始した。 ・「八頭町果樹トレーニングファーム」の体制整備に向けて関係機関の打合せ、受入農家を対象とした研修の実施等を支援し、八頭町果樹トレーニングファーム研修（第1期）が開始された（R6.6研修生募集、R6.10研修開始）。	16.9	◎	・受入農家も研修生を指導することで、自分自身のスキル向上があると思うので、今後も積極的な受入をお願いしたい。 ・色んな事に取り組みながら方向性を確立して、県下の梨農家の見本となること期待する。 ・若い人に対して、農業に対する興味関心を高めていく必要がある。また、受け入れ人数が増えた際に備え、研修場所や講師の体制を整備する必要があると感じた。
倉 吉: 三朝町における米・大豆ブランド化推進および水田営農維持へ向けた取組推進～「三朝神倉」の安定生産支援～	・「三朝神倉（大豆）」は、三朝町の特産物として生産振興されている。生産物は農協が全量買い取り、専門業者を通して味噌等に加工・販売しているため、販売ニーズに即した安定生産が求められている。 ・近年は、帰化アサガオ類の蔓延が問題となっている。産地維持のためにも帰化アサガオ類の蔓延防止は喫緊の課題であることから、生産者の危機意識の向上を図るとともに、防除技術確立と周知及び波及を目指した。	18.4	◎	・目的が明確で普及活動の具体的取組の実際が伝わった。また、普及の成果も出つつあると判断した。 ・関係機関との連携が取られており、成果に繋がっていた点が良いと感じた。 ・大豆ブランド化や収量増、農家の増加につながっていくことが最終的に目指すところだと思うので、アサガオ防除がどう影響していくのか関心を持って見ていきたい。 ・調査方法については、ICT化（衛星データ）を行って人手をかけない方法を確立を望む。
真 伯: 大栗西瓜100万玉産地の維持・発展支援	・大栗西瓜は全国的にも高い評価を受けるブランド西瓜である。しかし、高齢化等によりここ10年余で栽培面積は85%、栽培戸数は78%に減少しており、産地規模の維持には新規栽培者や後継者の確保が急務である。 ・大栗西瓜組合協議会は、100万玉以上維持の方針のもと、産地振興方策の検討を重ね、新規就農サポート部を新設した。産地と関係機関が一体となって新規栽培者の確保、受け入れ体制を整備するとともに、出荷ロスに繋がる栽培上の技術課題解決等を支援した。	18.0	◎	・新規就農確保するためのロードマップをつくり支援を行っている。また、生産部会内に新規就農サポート部を設置しサポート部の活動支援するなど、積極的な取組で評価ができた。 ・県内の他生産部にも参考となる事例であることから、もっと積極的に情報発信をしていただきたい。 ・Instagramでの発信は良い方法だと思うが、実際の反響はいかがか？。LINEやXを組み合わせると、もっと多くの方に届けられるのではないかと。 ・玉数確保技術や高温対策など普及所の役割はますます重要になるので、安定生産に向けてさらなる推進をお願いしたい。
西 部: 高温による水稲被害の軽減と有機物利用によるコスト低減	・近年の夏季の異常高温は、水稲の収量・品質、害虫発生にも影響を及ぼしている。令和5年は米の品質低下に加え、南部町ではイネカメムシの多発により水稲の減収・品質低下が発生し、緊急的な対策を求められている。 ・水稲の高温障害は、高温耐性に優れた品種開発が進んでおり、それらの現地適応性の検討が必要である。また、イネカメムシによる被害軽減に、南部町3法人を重点対象農家として選定し、①飼料用米基準反収（532kg）以上の達成、②主食用米でのカメムシ防除率の向上を図った。	16.9	◎	・イネカメムシ急増の原因がわからない中で何とか課題に対処しようとする使命感は素晴らしいと感じた。 ・県内の他地域でも発生可能性がある中で、成果の共有や補助制度拡充の働きかけなどさらなる取組に期待したい。 ・防除の情報を小さな農家にも共有していただき有効な普及活動になればと思う。 ・お米は主食です。この米をずっと作り続けていける環境を作っていただけれたらと思う。
大山支所: 「新甘泉」「王秋」の生産安定	・大山果実部では、収益性の高い「新甘泉」、「王秋」を栽培する生産者が多くなっているが、「新甘泉」の黒星病、「王秋」のコルク状障害（格外）が原因で出荷量が伸び悩んでいる。 ・「新甘泉」では黒星病対策、「王秋」ではコルク状障害対策に取組、生産安定を図った。 ・「新甘泉」、「王秋」が安定して生産できる目途が立ったことにより、生産者からは「梨が儲かる」という声が上がようになってきた。	16.8	◎	・出荷量が増えない原因を話し合う場を設けた点は、普及所が主導的役割を発揮されていて良い活動だと思う。 ・安定生産は農家にとって大切なことですが、農家によって考え方が違い技術の差が見られるとのことで、生産部と一緒に技術の高位平準化が図れるよう研修などを引き続きやっていただきたい。 ・オーソドックスな技術の開発、普及であり、普及活動の原型だと思う。今後も頑張ってください。
日 野: 畜産の継続と発展を目指した担い手育成～酪農家の第三者継承支援～	・酪農家S氏が諸事情により経営に支障を来し、大山乳業農業協同組合からは第三者継承を希望するY夫妻を紹介されたことから、経営移譲を進める方向で検討をすすめた。 ・継承者・被継承者双方にとって負担が少ない継承方法の検討、畜産基盤再編総合整備事業で整備された施設や機械及び経産牛等の償却資産や育成牛等の棚卸資産等の譲渡方策の検討、活用する制度、補助事業及び融資の検討、経営計画の作成支援等を行った。	17.0	◎	・今回の取組が良い事例となり、次の第三者継承に波及することを期待する。 ・経営検討会の開催や手続きのスケジュール化など、手厚い支援で農家さんとの関係づくりがされていることが分かった。 ・今後は酪農だけでなく他の分野でも参考になるように感じた。 ・継承者の経営発展に向けて、個体の飼養管理や牛舎の環境管理等農業者に寄り添ったこまめな支援を期待する。

【点数結果の凡例】 ◎ 16点以上 :優れた取り組みである
○ 12点以上16点未満 :妥当な取り組みである
△ 12点未満 :成果に乏しい取り組みである